



園 だ よ り

ふみつき
7月(文月)号

令和 8 年 6 月 3 0 日
千代田区立お茶の水幼稚園
園 長 伊 藤 栄 司



<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>

あじさいの茶会

園長 伊藤 栄司

今年度、最初のお茶会が開かれました。以前より小学校でもお世話になっている裏千家の先生方にご指導いただきました。校舎5階和室の床の間にアジサイを生け、年長児が作った掛け軸を飾り本物の茶室のような雰囲気の中で教わりました。

見て学ぶ

「学ぶは真似る」と言われるように、まずは、お手本をよく見るところから始まりました。笠松先生・荒川先生のお二人が亭主(お茶を点てる人)とお客(お茶を飲む人)に分かれ手本を見せてくれました。子どもたちは真剣な眼差しで、一つ一つの所作(動き)を見ながら学んでいた姿が印象的でした。また、影山先生が一つ一つの所作の意味を解説してくださっていたので、次は、「自分の番だ」と考えながら見ていたのかもしれません。

美しい所作

お手本を見て学んだ後は、実際にお茶碗を使っの練習です。子どもたちは予め袱紗(ふくさ)ベルトを腰に巻きました。これは、着物の帯の代わりに身に付けるもので、お借りした袱紗を挟んでおきます。本日はお茶をいただくだけなので袱紗は使いませんが、次回はお茶を点てるので使い方の練習をしました。また、ポケットに入れた懐紙(かいし)は、お菓子を食べて手が汚れたときに使ったり、お茶を飲んだ後、飲み口をぬぐった後に指を拭いたりすることを学びました。

畳には右足から入り、かかとを縁に付けるように立ち、静かに座る。茶碗は模様が見えるように置かれているので、静かに回しながら模様の無いところをいただくなど、基本的な所作を教わりました。一つ一つの動きには無駄がなく、姿勢を良くする必要があるので真剣に取り組む子どもたちの姿はとても美しく見えました。

青楓(あおかえて)

そして、いよいよお菓子とお茶をいただく時間になりました。今回のお菓子は、新緑の楓(かえて)の葉をかたどった青楓でした。本来は、手に取り二つに割って食べるそうですが、園児には難しいので手に取ってかじることにしました。「おいしい」「ゼリーみたい」と口々に感想を言いながら皆、上手に食べていました。食べた後は、懐紙で手を拭くことも忘れずにきちんとできていて感心しました。

次は、お茶です。ひまわり組は一度、部屋を出て一人ずつお茶を取りに行きました。水屋(お茶の様々な準備を行うバックヤード)で点ててくださったお茶を手に、こぼさないように緊張した面持ちで戻ってきました。そして、右足から畳に入り膝をついて落ち着きます。お茶碗を手に持ち、模様が見えなくなるまで回し一服しました。「おいしい」「ちょっと大人の味がする」等、お抹茶の味を楽しんでいました。

最後は「吸い切り」と言って、ズズと音を立ててお抹茶の泡を飲み切る作法を教わりました。これには、吸い切るほどおいしかったと「飲み終わりました」という合図の二つの意味があるそうです。みんな、最後までしっかりと味わうことができました。

伝統を味わう

私が初めてお抹茶をいただいたのは中学校の修学旅行でした。幼児期にこんなにも素敵な体験ができるのは、うらやましい限りです。お茶の作法は、丁寧でありながらも無駄のない洗練された動きです。日頃の立ち居振る舞いにも通じる要素がたくさんありますので、学びを通して身に付けることで、より豊かな生活を送ることができるのではないのでしょうか。次回、11月の「みのりの茶会」が今から楽しみです。